特集　官民連携プロジェクトの目指す目的地

府中市長
小野申人

座談会

府中市が進めている府中天満屋活用プロジェクト。特集では、府中市と株式会社天満屋ストアが連携し、まちの活性化を図ることで、どのように市民の皆さんのしあわせにつながるのか、時代の流れも読み取りながらの座談会が始まります。

問い合わせ先　商工労働課（☎４３-７１９０）

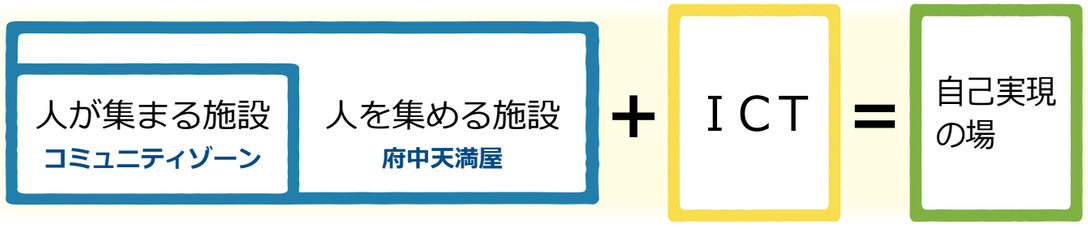
府中天満屋プロジェクトの始動

渡邉　コロナ禍の中で、今、急激に日本のＩＣＴ環境が変化してきています。おそらくこの後も、後退することなく、むしろ加速度的に早まるのではないかと、私は思います。その中で、小野市長、府中市において新たな大きな動きが始まっていますよね。

小野　まず府中市の現状は、昨年６月に総合計画を策定しました。名称を、しあわせ府中2030プランとし、選ばれるまちふちゅうの実現に向け、五つの基本的な目標を打ち出しています。「産業の発展」「人づくり」「にぎわいづくり」「安心・安全」「ＩＣＴ都市ふちゅうの実現」です。今までの計画と違い、府中市が持つ強みを磨き上げ、それを生かしていこうというものです。その根幹となるものが、ＩＣＴになっており、さらに、その他の目標も、自由自在に掛け合わせることによって、新しい府中の発展を目指していきたいと思っています。大人になっていくということに、期待しています。また、天満屋ストアが行った府中天満屋の寄附は、パブリックマインドを持った行動として、私は非常に感銘を受けております。官民連携の取り組みを進め、英断を決せられたと思っています。

野口　ありがとうございます。我々の総合スーパーやショッピングセンターは、令和の時代が変わり目にあると思っています。大規模な店舗でモノを売る時代から、インターネットやネットショッピングを利用するようになった部分や、コト消費の時代に移行してきたといえます。また、このコロナ禍にありまして、非常に短時間で必要なものしか買わない、接触を避ける買い物のお客様も増えてきました。買い物＝レジャーにならないというのが、今の状況です。府中市において、府中天満屋という建物が、中心市街地にあり、いわゆる地域のランドマークとして、何十年も前から、地域の方に大変な親しみを持ち続けていただいているのは、紛れもない事実だと思います。これからは従来の販売だけで、存続していくことが、非常に難しい反面で、地域の人で集まる場となっていくことが、つまるところ我々が残っていける道になっていきます。そこで、官と民が一体となってやれることを府中市のお力も借りながら、パートナーとして我々が協力できることは何だろうというのを考えた中で、府中天満屋の中にコミュニティゾーンをつくるという形を提案させていただきました。一緒になって、魅力づくり、地域活性化できる事業だと思っています。

渡邉　建物の特性として、大きく分けると二つに分類され、用事があり人が集まる公共施設と、魅力を高めて、人を集める商業施設があります。人を集める施設であった府中天満屋に、公共施設の枠を飛び出して、ネウボラ機能を集約したことは、非常に大きなチャンスになってくると思います。



小野　府中市では、高速通信網を市内全域に整備をしますし、府中天満屋のコミュニティゾーンでは、新たに５Ｇ接続エリアを整備します。５Ｇで何ができるのか、どんな展開があるのかはこれからですが、例えば、大画面を使った、オンラインのセミナーであるとか、医療、スポーツなど、さまざまな形での展開が期待できると思っています。広い駐車場がある府中天満屋の２階に、ネウボラと、民間施設が一緒にあるというのも、府中市で初めての施設になるので、新たに生まれるにぎわいスペースとして、期待していただきたいと思います。

まちに新たな雇用やビジネスチャンスを生む

村田　私の方からは、まちづくりとＩＣＴの事例を紹介します。千葉県柏市で進められている柏の葉スマートシティは、官民学連携とプラスして、データ駆動による地域運営を通じ、駅を中心とするスマートコンパ

WEBで参加

凸版印刷株式会社
トッパンアイデアセンター　本部長
村田一朗　さん

WEBで参加

株式会社天満屋ストア
代表取締役社長
野口重明　さん

賑わいづくり検討委員会　委員長
福山市立大学　教授
渡邉一成　さん

※座談会は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をした上で、行っております。